

通知表所見の表現〔語尾〕の工夫について

★ あなたの所見にはどのような語尾がどのくらい使われていますか ★

— 語尾の使い方が多様な伝え方や教育観が広がります —

1, 児童の成長への看取り（教師が把握した事実を伝える）

- ・・・(姿が) 見られました
- ・・・が育っています
- ・・・に取り組んでいます
- ・・・(を考え) 行動しています
- ・・・(として) 活躍しました
- ・・・(積極的に) 行いました
- ・・・ができました
- ・・・(努力を・取り組みを) していました
- ・・・〇〇名人です
- ・・・(して) くれました
- ・・・が上達しました
- ・・・(優しさ・頼もしさ) があります

2, その事実を教師としてどう感じるか（教師の所見部分）

- ・・・(成長を) 感じます
- ・・・(と工夫・努力していることが) がよくわかります
- ・・・が目立って(際立って) いました
- ・・・(のように) 見えます
- ・・・が自信につながっています
- ・・・が友達のよい手本です
- ・・・(様子が) うかがわれました
- ・・・が印象的です
- ・・・が素晴らしいです
- ・・・して輝いていました
- ・・・が微笑ましいです

3, それを教師としてどう支援しているのか・支援していくのか（教師の教育活動・抱負）

- ・・・(に気をつけて) 見てきました・見ていきます
- ・・・(に) 見守ってきました・いきます
- ・・・(に) 声をかけてきました・いきます
- ・・・(努力を) 支援してきました・いきます
- ・・・(よう) 応援してきました・いきます
- ・・・(よう) 励ましてきました・いきます
- ・・・(よう) 方向づけてきました・いきます
- ・・・(よう) 褒めてきました・いきます
- ・・・(よう) 評価してきました・いきます
- ・・・(よう) 助言してきました・いきます
- ・・・(に) 指導してきました・いきます

★ 所見を読むと、教師が子どもの成長をどのように把握し、それをどう感じ、どのように支援しようとしているのかが見えてきます。レベル3まで書ける教師でありたいですね。

ESDの視点を反映させた通知表所見の書き方

ESDの理念を踏まえた次期学習指導要領の骨格が次第に明らかになってきています。

では学校教育の現場において、具体的には何をどのような視点に立って変えていけばよいのでしょうか。ESDカレンダーを元にした教科横断的なカリキュラムマネジメントや学びに火をつけるアクティブラーニングへの研究・実践だけでなく、身近な通知表への所見記入例をもとにESDを踏まえた評価について次のような視点から見直してみてもいいでしょうか

① 児童・生徒理解と具体的な活動の記録・・・基本です

・・・では、捕まえたヤゴをじっくりと観察し、雄と雌との体の違いに気づきました。
また、学校の周りにはどのような種類のトンボがいるのかに関心を持って調べました。
子どもの興味や気づきを教師が的確に把握し、記録しています。
その所見を読むと、**誰の所見か名前や顔がすぐに浮かぶような記述**を心がけます。

② 学んだことを生活に活かそうとする姿勢を捉える

ごみを減らすためには5Rに取り組むことが大切なのに、家ではRepairができていないことや、給食を残しがちな自分のことなど、学習したことを生活に結びつけて考えようとする姿が素晴らしかったです。

学びを自らの生活に戻して考えたり取り組んだりする姿を捉えることが、「**学んだことで何ができるようになるか**」という視点を踏まえた評価になります。

③ 単元を通じた問題意識とその持続・・・学びに火がついた様子を捉える

「私たちの暮らしと水」では、元の川の水と水道水を比べたときに、〇〇など数多くの疑問を出しました。学習を進める中でそれらの謎が明らかになり、なるほどと思いつながりながら学びを進めているようでした。

単元の導入で取り組んだ「学びに火をつける工夫」が生きています。単元を通じた問題意識をもって、学びが進められ、子どもにとって学ぶ価値のある学習になりました。「**どのように学ぶのか・アクティブラーニング**」の視点を踏まえた評価になります。

④ 教科横断的な視点から児童の学びを看取る

「私たちの暮らしと水」のまとめ新聞では、水の旅や使われ方を図や円グラフを用いて、読み手に分かりやすくまとめることができました。

学んだスキルを活用して分かりやすく伝える子どもの姿に、教科横断的な指導の成果がさりげなく表れています。このような作品等に表れている子どもの『**活用能力**』の例を学級全体に『優れた取り組みの例』として紹介していくと、高度な学びが広がります。この短い一文に職員の指導力の高さが表れています。

「**教科等横断的なカリキュラムマネジメント**」の視点を踏まえた評価になります。